

# エスクリエイト通信

2015年10月6日発行

2015年10月号

株式会社 エスクリエイト

名古屋市中区錦一丁目4番16号 日銀前KDビル4階

TEL: 052-222-3600 FAX: 052-222-3699

URL: <http://screate-soft.co.jp/>

担当: コンサルタント 石垣 智博

tomohiro.ishigaki@screate-soft.co.jp

## 展示会に行ってみよう！

朝晩が涼しくなり、どんどん秋が深まっていますね。9月末は「中秋の名月」そして翌日の「スーパームーン」で秋の夜を楽しめました(多少雲がかかりましたが…)。中秋の名月は満月とは限らないことを今回の事で知りました。

中秋の名月といえば「お月見泥棒」です。私が住む地域では、お月見でお供えした団子、里芋、お菓子等を、子どもたちが盗っていくという行事があります。最近の名月のお供えというより、子どもたちの為に備えている感じになっています。とはいえ盗まれた方が豊作になるという言い伝えもあるようです。何であれ季節を感じる行事は良いもんだなあと感じました。

さて、今月号は秋に執り行われるイベントについての話題を取り上げます。

### ◆2年に一度の展示会

東海地区は工作機械に関連する工場がたくさんあります。その工作機械が主役である国内最大の工作機械見本市「メカトロテックジャパン (MECT) 2015」が2015年10月21日(水)～10月24日(土)にポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)で開催されます。(本当の主役は工作機械を使用する方たちですね)入場は有料なのですが、事前にWebで登録すると無料になります。

(URL:<http://mect-japan.com/2015/>)

メカトロテックジャパンは2011年、2013年、2015年と2年に1回のペースで開催されています。2年前からど

れくらい変わったのか知りたく、とても楽しみにしていました。

お金をかけているブースだなあ…と思う豪華なブースがあったり、実演をするブースがあったりします。工作機械メーカーや器具メーカーのブースを見るだけでも楽しいです。2013年に見学したブースではカーボンを削りだしてiPhoneの保護ケースを製作する実演がありました。作成した保護ケースは抽選でプレゼントしていました(ちなみに、私の同行者が当選しました(ビックリ))。

さらに、展示会とは別にセミナーも開催されます。今年は、車・航空機・新素材に関するセミナーとなっています。

個人的にはIoTという単語が世間を賑わせていますので、工作機械のIoTを注目して巡ってみたいと思います。

### ◆最大級の展示会

1300社超が出展する日本最大級の異業種交流展示会「メッセナゴヤ2015」が2015年11月4日(水)～11月7日(土)にポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)で開催されます。今年のテーマは「新たな価値を生み出す未来交流」とのこと。メッセナゴヤは「交流展示会」ということ、環境ビジネスプレゼン大会、サービスの発表会、愛知県内の職業学科で学ぶ高校生の取り組み等の発表などもあります。また、セミナーやフォーラムイベントもあり様々なニーズに応じてくれそうです。

そして、メッセナゴヤ出展しているのは企業ばかりでなく各地の商工会議所の出展や東日本復興支援コーナーがあり、地域の活性化に関する活動も感じることができます。



展示会を活用することで、未知の製品やサービスに出会えることもあります。業務の課題解決に関して展示会からヒントが得られるかもしれません。他にも様々な展示会が行われていますので、探してみるのも良いと思います。

## 「これは使える！経営にちょい足し IT！ 無料 IT ツールの活用」(その 5)

このコーナーでは、さらなる IT 活用をしていただきたいと思い、無料で使える IT を紹介しています。

### ◆データの分析の手始めに使える BI ツール



#### QlikView Personal Edition

BI とは Business Intelligence (ビジネスインテリジェンス) のことで、ビジネスを思考するという意味合いになりますでしょうか。そして、そのビジネスを思考するためのツールを BI ツールと呼んでいます。蓄積したデータを分析(関連・相関など)や加工し、経営・運営に活かすことが BI ツールで可能となります。

例えば、製造工程の品質のバラつきと気温・湿度との関係を模索、POS データから売り上げ動向を分析し商品品揃えの検討、顧客セグメントを分析し営業戦略を立案などがあります。様々な分野・業務での活用ができます。

今回ご紹介する QlikView Personal Edition はインメモリ化しているのでデータを読み込んだ後はディスクアクセスが無いのでとても快適に動きます。そして、無償でありながら有償版と同じフル機能が使えます。(無償ではなかなかないです) ただし、個人限定なので他者が作成した分析ファイルを読み込むことができません。はじめに行うデータ読込等はちょっと癖があります。難しい場合は、各販売代理店の無料セミナーも充実していますので、その活用をお勧めします。私自身も個人で利用もしていますし、無料セミナーも参加しました。

BI ツールを試してみたいという方お勧めです。

※情報は 2015/10/1 時点のものです。また、企業で定められているセキュリティルールの順守など情報セキュリティにはご注意ください。  
※紹介したサービスは自己責任でご使用ください。いかなる損害やトラブルの責任は一切負いかねますので予めご了承ください。

## 「本は考える為のサプリメント」(その 54)

本書は、日経新聞の「経営書を読む」コーナーで連載紹介されており、手に取りました。知らなかった事実を知ることができましたし、現在でも示唆に富んだ内容だと感じます。何度でも読み直したい書籍でした。



### 「日本はなぜ敗れるのか 敗因 21 カ条」

(山本 七平 著)

題名の通り先の大戦での敗因について、著者の経験・考えを「虜人日記」(小松真一著)の敗因 21 カ条を解説・引用する形で記しています。

※「虜人日記」とは、ブタノール(ガソリンの代用)を生産するために民間人である小松真一氏がフィリピンへの派遣を命ぜられました。そこで様々な辛酸を舐めて終戦を迎えました。終戦時にフィリピンで捕虜となり収容所で書いた記録です。

食糧がない、兵器等装備がない、整備された飛行場がない、現地に受け入れられてない、厭戦感情などの事実・現実にも目を向けず、軍の上層部が虚構の中でいたずらに人員を戦地に送り続けたことが良くわかります。虚構の中では整備された飛行場があり食糧があり兵器があったのでしょうか。白(事実)を黒(虚構)とする軍上層部を想像しました。

事実・現実にも目を向けないと効果的な対策が出来ないので、現場レベルでは何も改善されなかったことだと思います。世間を騒がしている東芝の「チャレンジ問題」も事実・現実にも目を向けてこなかったところは同じかもしれません。

書籍での、日本(日本人)は根本的には戦前と戦後でなにも変わっていないということに同意できます。著者のいうように戦前に蓋をして暗黒史にせず、当時を振り返り、敗因をつきとめ、反省すべきものは反省し、解決すべき課題を解決していく必要があるのかもしれません。そして、この姿勢は会社・個人でも必要なものですね。

—以上—

